2026年4月3日
スポットワーク研究所　山口眞司

スポットワークのマッチングプラットフォームを通じた広域就業と関係人口創出可能性に関する調査レポート

スポットワーク研究所
Spotwork Institute by Timee

1　はじめに

少子高齢化に伴う人口減少により、多くの地方自治体が地域づくりの担い手不足という深刻な課題に直面している。こうした中、移住といった「定住人口」でも、観光といった「交流人口」でもない、特定の地域と継続的かつ多様に関わる「関係人口」への期待が高まっている。

政府においても「関係人口」の創出・拡大は重要施策の一つとして位置付けられており、「経済財政運営と改革の基本方針2025（令和7年6月13日閣議決定）」では、地方への新たな人の流れの創出に向け、関係人口の量的拡大・質的向上（実人数1,000万人、延べ人数1億人）を目指すとともに、ふるさと住民登録制度の創設などを通じた「関係人口の可視化」を推進する方針が示されている。

スポットワークは、短時間・単発の就労として時間単位又は1日単位の雇用契約のもとで働く働き方であり、面接等を経ることなく先着順で就労が決定することから、従来の働き方と比較して、働き手が仕事を選択する際の心理的・地理的障壁を下げる特性を有しているものと考えられる。

この特性は、働き手の居住地から離れた遠方地域でのマッチングを促す可能性がある。実際に、観光地での短期就業や日本一周といった旅の過程での就業など、広域的な就業実態が確認され始めている[1]。こうした遠方地域でのマッチングを促進することは、国が推進する「関係人口」の創出に寄与できる可能性が高い。

本レポートは、スポットワークのマッチングプラットフォームであるタイミー（以下単に「タイミー」という。）が保有するシステムデータと、タイミーを利用する働き手（以下「ワーカー」という。）を対象としたアンケート調査を基に、ワーカーが日常的な生活圏や通勤・通学先以外の遠方地域（以下単に「遠方地域」という。）で就業する実態及びその背後にある意識を分析し、スポットワークという働き方が「関係人口」の創出・拡大にどのように貢献し得るかを考察していくものである。

[1] 参考記事（タイミーラボ）「「計画的に旅を楽しめるようになった」バイクで日本一周をする旅人に、タイミーの使い方を聞いてみた」https://lab.timee.co.jp/blog/mylife/interview0007
参考記事（タイミーラボ）「「上京した子どもたちに会いたい」と「知らない場所で働きたい」を実現。北海道と東京でのパラレルワーク」https://lab.timee.co.jp/blog/mylife/interview0002

2 概要

1. 広域マッチングの実現：タイミーのシステムデータより、直近1年間で延べ約74.2万人が日常的な生活圏や通勤圏を超えて広域でマッチングしていることが明らかとなった。このことから、タイミーを通じた働き方が日常的な生活圏等を越えた広域的な労働力の移動を促進していると考えられる。

2. 中心都市から周辺都市への人材の流れ：遠方地域で就業する者の居住地域（供給源）と就業先（供給先）の傾向をみると、「中心都市」のワーカーが「周辺都市」へ移動する傾向が一定程度見られた。これは「周辺都市」への労働供給に寄与していることを示している。また、遠方地域での就業は観光分野の業務へのマッチングの割合が相対的に高いという特性が見られた。

3. 「関係人口」創出への寄与：アンケート調査で得られた遠方地域での就業時の行動に基づき、「遠方就業ワーカー[2]」（遠方地域でタイミーを通じてスポットワークをした経験があるワーカーをいう。以下同じ。）を「収入型（地域への関心低）」「余暇活動中心型（観光等との併用）」「地方関心型（地域活動への関心高）」の3つに分類した結果、収入型が55.1%、余暇活動中心型が35.9%、地方関心型が9.1%であった。就業をきっかけに地域との関わりが「強くなった」層も確認されており、遠方就業ワーカーの一定数が一時的な労働力供給に留まらない「関係人口」として地域に貢献し得ることが示唆された。

4. 地方への関心度合いと行動・移動の連動：「余暇活動中心型」や「地方関心型」の分類の遠方就業ワーカーは、「収入型」の分類の遠方就業ワーカーと比べ、就業場所において宿泊を伴う滞在をしている傾向がみられた。

[2]本レポートでは「広域マッチング」と「遠方就業」という類似の単語が出てくるが、それぞれ定義が異なることから、別の単語を用いている。「広域マッチング」の定義はP3を参照されたい。「遠方就業（ワーカー）」は、本文のとおり「遠方地域でタイミーを通じてスポットワークをした経験があるワーカー」をいう。

3　システムデータからみる広域マッチングの状況

タイミーのシステムデータから、就業先が所在する市区町村（以下「就業先市区町村」という。）とワーカーの居住地の市区町村（システム上の登録市区町村）を比較し、以下の3つのいずれの条件にも該当しないものを「広域マッチング」と定義づけた。本推計においては、これは、日常的な生活圏や通勤圏を越えた移動を伴う就業と整理している。

① 就業先市区町村と同一市区町村にワーカーが居住している
② 就業先市区町村に隣接する市区町村（他都府県も含む。）にワーカーが居住している
③ 就業先市区町村と同じ「都道府県内経済圏」（総務省「全国家計構造調査」）に属する市区町村にワーカーが居住している

タイミーのシステムデータにおいて、2024年8月1日～2025年7月31日の1年間で広域マッチングとみなせる稼働人数をカウントしたところ、延べ74.2万人と推計された[3]。

また、同期間で単発の就業に留まらず、広域マッチングの定義に該当する就業であって同一市区町村での就業を3回以上経験しているワーカーの推計値は延べ19.5万人となった。この広域マッチングを直ちに「関係人口」と評価することはできないが、タイミーを通じた働き方によって、地域間で一定の労働力の移動が生じ、遠方地域と関わりを持つきっかけとなっていることを示唆している。

（推計方法）

- 本推計は、図表1の市区町村の区分ごとで標本市区町村を抽出（層化無作為抽出）し、標本の結果から全体を推計している。推計方法は以下のとおり。なお、政令指定都市及び特別区（東京23区）については、一般的に労働市場が開放的であり、圏外の者が就業している傾向が特に高いものと考えられることから、標本調査の対象から除き、推計時には中核市の「平均（修正版）」に置き換えている。

  ① 表の区分別に、標本の広域マッチング人数の「平均」を算出
  ② 標本の合計値を出す（「平均」×標本サイズ）（A）
  ③ 外れ値（2σ（標準偏差）以上）を除いた「平均（修正版）」を算出
  ④「母集団-標本」の地方自治体（標本以外の地方自治体）の人数を推計する（「平均（修正版）」×（母集団数-標本サイズ））（B）
  ⑤ AとBを足し上げる。（各区分の推計値）
  ⑥ 各区分ごとに①～⑤を行った上で、各区分の推計値を合計し、全体を推計する。

図表**1**　市区町村区分ごとの標本サイズ

区分	抽出標本サイズ	地方自治体数	標本サイズ割合
中核市	12	62	19%
施行時特例市	4	23	19%
中都市（10万人以上）	29	156	19%
小都市（10万人未満）	100	531	19%
町村（1万人以上）	75	399	19%
町村（1万人未満）	99	527	19%
計	319	1698	19%

[3] 延人数であるため、例えば、東京都に住所登録のあるワーカーが、当該期間内に北海道と沖縄県内の事業者に1回ずつ就業した場合は、2人分として計上される。なお、同一の遠方地域で就業する場合は、複数回働いている場合も1人分として計上される。

4 アンケート調査から見える遠方就業ワーカーの実態

タイミーを通じて遠方地域でスポットワークをした経験がある遠方就業ワーカーが、どのようなきっかけで、どのような目的を持って就業しているのかを明らかにするため、アンケート調査を実施した。

【アンケート調査[4]の概要】（調査票は付録参照）

- 調査名：タイミーにおける「地方就業」の実態とその動機に関する調査
- 対象：タイミーを利用するワーカー（直近1年で稼働経験のある者のみ）
- 調査方法：インターネットアンケート
- 回答期間：2025年10月20日～21日、同年12月17日～19日
- 有効回答数：894名（うち、遠方で就業したことのあるワーカー[5]396名）
- 回答者（396名の内訳）：図表2[6]

アンケート回答者のうち、遠方就業ワーカーは全体の約44%（894名中396名）であった[7]。

図表**2** アンケート調査の回答者の基本属性

性別	
男性	40.9%
女性	56.8%

年齢構成比	
20代未満	2.0%
30代	9.9%
40代	21.2%
50代	50.8%
60代以上	13.9%

職業等	
正規職員	14.9%
パート・アルバイト	35.4%
契約社員・派遣社員	16.4%
専業主婦・主夫	4.9%
学生	0.8%
無職	14.6%
その他	13.1%

4.1 遠方就業ワーカーの行動特性と移動の実態

[4] 本調査では属性構成をサービス全体の構成比に合わせる「ウェイト補正」を実施していない。遠方就業ワーカーの属性構造（年齢や職業等の構成）は、サービス全体の属性構成と構造的に異なる可能性が高い。サービス全体の構成を踏まえ補正を行うことは、遠方就業ワーカー特有の意識を歪めてしまうリスクを伴うため、本調査ではあえて補正を行わず、標本調査の実数を集計している。

[5] アンケート問1「あなたは、『日常的な生活圏』以外の地域や、『通勤・通学先』以外の地域（以下「遠方の地域」といいます）で、『タイミーを通じて』就業したことはありますか。」において、「はい」と回答した者を指す。

[6] 図表2においては、無回答者等がいるため、合計が100.0%になっていない属性がある。タイミーの全体の構成比は以下のとおり（2024年12月時点）。
・年齢：10代(13.9%)、20代(30.5%)、30代(18.5%)、40代(18.5%)、50代(13.9%)、60代以上(4.6%)
・性別：男性(42.1%)、女性(55.2%)
・職業等：学生(32.6%)、会社員(27.6%)、自営業・自由業(6.6%)、パートアルバイト(16.8%)、専業主婦・専業主夫(7.1%)、その他（9.3%）

[7] 約44%という数値及び以降の調査結果の解釈にあたっては、以下の点に留意が必要である。
第1に、本アンケートの回答者は遠方地域での就業に関心を持つ層が中心となっている可能性があり、自己選択バイアスや無回答バイアスが働いていることが考えられる。このため、本レポートで示す割合はタイミーの登録ワーカー全体の傾向を厳密に表しているものではなく、あくまで回答したワーカーにおける傾向を示す数値である。
第2に、「遠方」の判断となる「日常的な生活圏」や「通勤・通学先」という用語について、本調査では客観的な距離等による定義を設けていない。したがって、各就業先の地域が「遠方」に該当するか否かの判断は、回答者個々の主観に基づいている。

4.1.1 居住地と就業先の地域の関係

遠方就業ワーカーの居住地（登録市区町村）と就業先（遠方地域）の地域の関係を詳細に分析するため、国土交通省の「都市類型対応表[8]」を活用し整理を行った。

具体的には、居住地及び就業先（遠方地域）を、同表に基づき「中心都市（a, d, f, h）」と「周辺都市（b, c, e, g, i, j, 町村）」の2区分に集約し、その移動構造を2×2のマトリクスを用いて明らかにした。

このマトリクス分析の結果、タイミーを通じたスポットワークによる遠方就業が「周辺都市（地方部や町村を含む）」への労働供給に寄与していることが明らかになった。

第1に、遠方地域の68.6%を「周辺都市」が占めている点である。これは、タイミーを通じたスポットワークによる遠方就業が「中心都市」へのさらなる労働供給を助長するものではなく、むしろ「周辺都市」への労働供給を促進していることを示している。

第2に、「中心都市」に居住するワーカーが「周辺都市」へと移動して就業しているケースが、全体の20.8%確認された点である。これは、中心都市の余剰労働力が周辺都市の人手不足解消に一定程度貢献していることを示唆している。

図表**3**　遠方就業ワーカーの居住地と就業先（遠方地域）

		就業先（遠方地域）	
		中心都市	周辺都市
居住地	中心都市	14.0%	20.8%
	周辺都市	17.4%	47.8%
	計	31.4%	68.6%

・「周辺都市」には、都市類型対応表の分類に加えて「町村」を含んでいる。
・「居住地」は、回答者のシステム上の登録住所から地方自治体名を特定している。「 就業先（遠方地域）」はアンケートの自由回答から地方自治体名を特定している。
・　N＝379。システム連携が正常に完了した回答者のみを対象としていること、自由記述から地域を特定できなかった者を除いていることから、アンケート全体の回答者数（N＝396）と異なっている。

4.1.2 移動手段・所要時間及び滞在日数

遠方就業ワーカーの行動実態を分析した結果、地理的な距離や時間の制約を超えた「長距離移動を行っている層」の存在が明らかになった。

---

[8] 国土交通省「都市類型対応表」https://www.mlit.go.jp/common/001241794.pdf
「都市類型対応表」においては、地方自治体を以下のa~jに分類している。
a：三大都市圏（中心都市）
b・c：三大都市圏（周辺都市）
d：地方中枢都市圏（中心都市）
e：地方中枢都市圏（周辺都市）
f：地方中核都市圏（中心都市 40 万人以上）（中心都市）
g：地方中核都市圏（中心都市 40 万人以上）（周辺都市）
h：地方中核都市圏（中心都市 40 万人未満）（中心都市）
i：地方中核都市圏（中心都市 40 万人未満）（周辺都市）
j：地方中心都市圏（その他の都市）（-）

交通手段の多様性（図表**4**）

遠方地域への交通手段としては、自家用車や電車（在来線）の利用が主流であるが、新幹線や飛行機を利用して現地を訪問したという回答も一定数確認されている。これは、日常的な生活圏を大きく超える広域移動を前提としていることを示している。

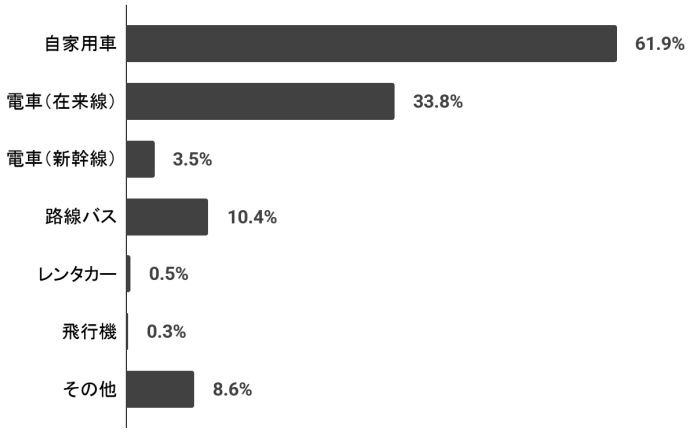
長距離移動の実態（図表**5**）

遠方地域への移動時間（片道）は、1時間30分以上と回答した者が全体の33.6%であった。さらに、2時間以上と回答した者は18.2%であった。こうしたデータから、ワーカーにとっての「働く場所」の選択肢が広範囲に及んでいることを示している。

就業先遠方地域での滞在（図表**6**）

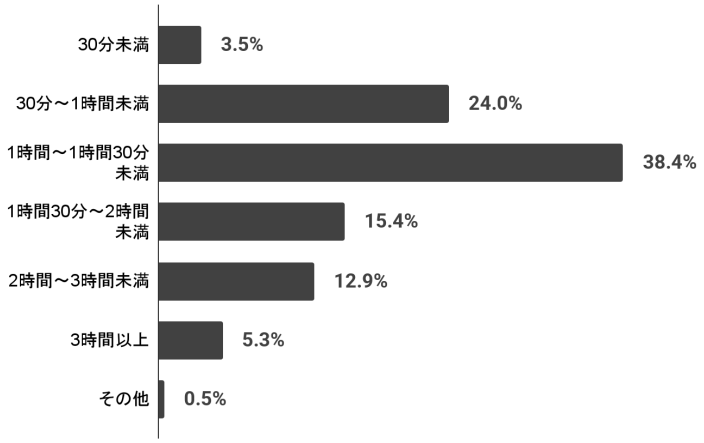
就業先遠方地域での滞在日数は、「日帰り」が86.6%と最も高い割合を占める一方で、「1泊以上[9]」と回答した者の割合が13.4%に達した。滞在期間は「1泊2日」や「2～4泊」といった短期滞在が中心であるが、「1か月程度以上」滞在したという回答も見られた。こうしたデータから、ワーカーが単に就業のみを目的に移動するのではなく、観光や帰省、あるいは中長期の滞在といった目的に付随する形で、その「スキマ時間」にタイミーを通じたスポットワークにより地域での労働に参加している実態が推察される。

図表**4**　遠方就業ワーカーの交通手段（**N**＝**396**）（**MA**）

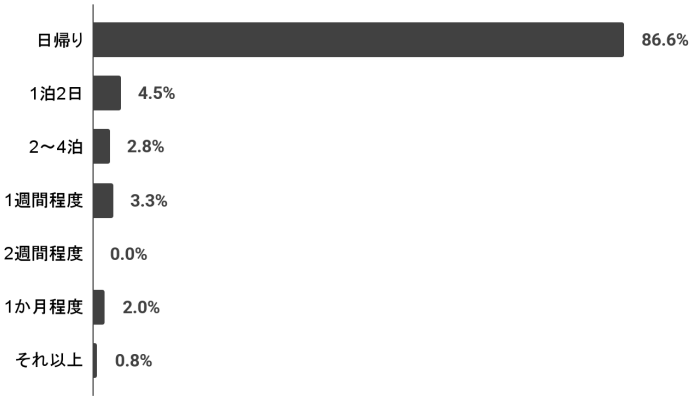


[9] アンケート調査の選択肢中「1泊2日」、「2～4泊」、「1週間程度」、「2週間程度」、「1か月程度」及び「それ以上」の回答を足し上げた割合。

図表5　遠方就業ワーカーの遠方地域への移動にかかる時間（N＝369）



図表6　遠方就業ワーカーの滞在日数（N＝396）



4.1.3 就業先遠方地域との事前接点の実態

遠方就業ワーカーが、タイミーを通じて働く以前から当該遠方地域とどのような接点を持っていたかについて分析を行った。

事前接点の有無と内容

タイミーを通じて就業する以前の当該遠方地域との関わりの有無を聞いたところ、これまで関わりを持ったことがなかったワーカーが33.1%に達した。

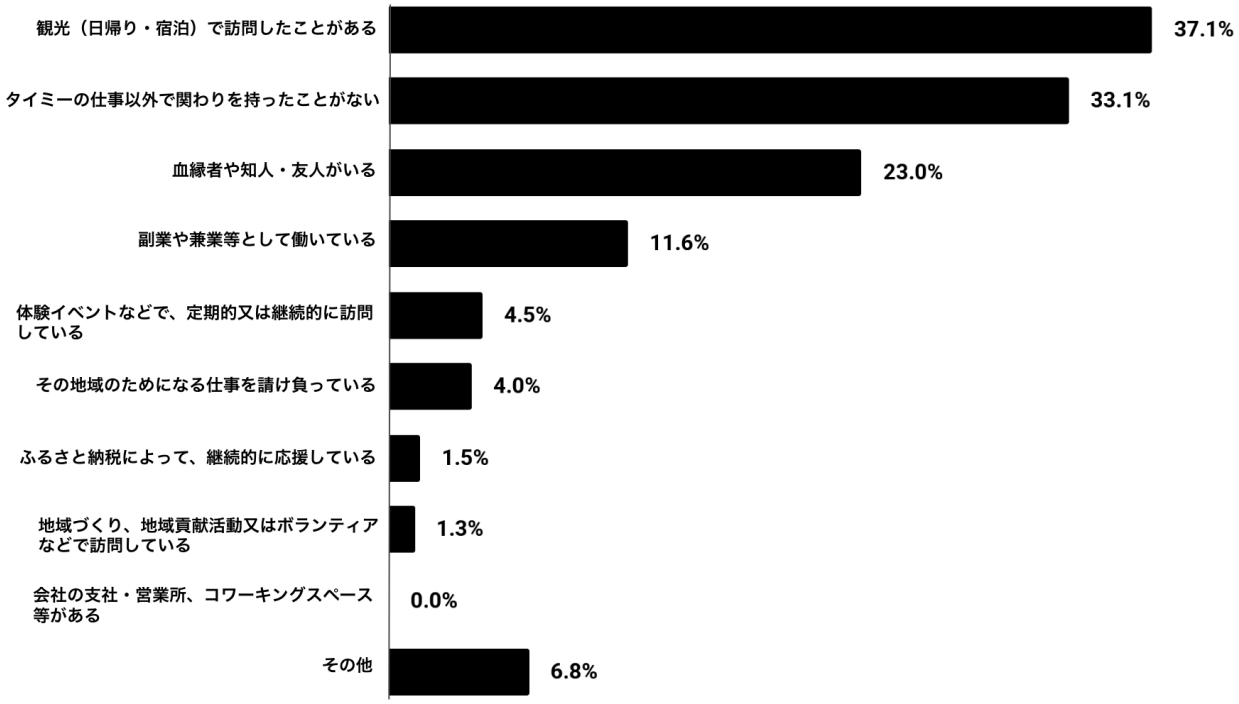
一方で、就業以前から何らかの接点を持っていたワーカーも一定おり、「観光（宿泊・日帰り）での訪問経験[10]」（37.1%）が最多であり、次いで「血縁者や知人・友人がいる[11]」（23.0%）、「副業や兼業等として働いている」（11.6%）などの順であった。

---

[10] 「その他」の自由回答として、その地域ならではの経済活動を行っているものと考えられるもの（例「うなぎ釣りをする近くにある」や「ドライブ」、「映画鑑賞　観劇」など）を「「観光（宿泊・日帰り）での訪問経験」の選択肢に含めて集計している。

[11] 選択肢中「地縁がある又は血縁者のいる地域に訪問している」及び「知人・友人がいる」のうち、1つ以上の選択肢を選んでいる回答者の割合である。

図表7　タイミーを通じて就業する以前の遠方就業ワーカーの遠方地域との関わり（N＝396）（MA）



就業を契機とした関わりの深化

遠方就業ワーカーのうち、働く前から当該遠方地域と関わりがあった層（n=211）においても、対象者の34.1%が「タイミーでの就業後、関わりの強さが大きくなった」と回答しており、タイミーを通じた就業がその後の関わりをさらに深める契機となっている実態が示唆された。

以上の結果は、タイミーを通じた就業が、ワーカーに対して「接点のなかった地域との出会い」のきっかけとなっていると同時に、既に接点を持っていた地域との関係性を「これまで以上に深化させる」という、2つの役割を果たしていることを示している。

4.1.4 遠方就業でマッチングしている業種

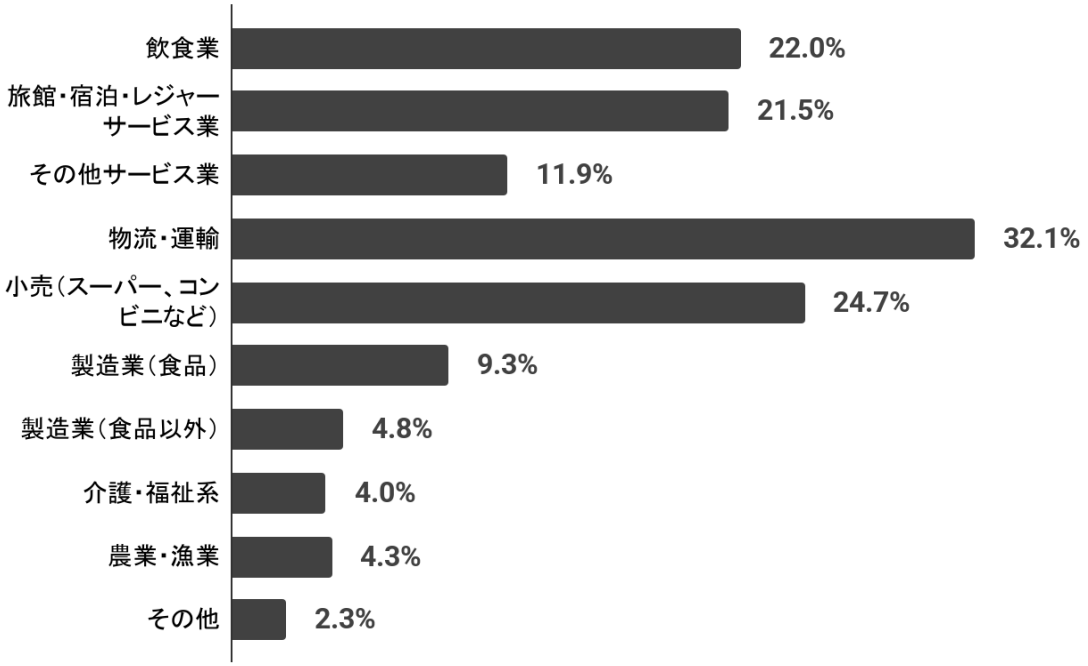
遠方地域での就業において、どのような業種が選択されているかについて分析を行った。

主要職種と観光地就業の傾向

遠方地域で就業した業種としては、「物流・運輸」（32.1%）の割合が最も高く、次いで「小売（スーパー・コンビニなど）」（24.7%）、「飲食業」（22.0%）、「旅館・宿泊・レジャーサービス業」（21.5%）の割

合が高くなっている。タイミー全体の求人構成において「ホテル」関連の職種が占める割合が約7%[12]であることと比較すると、遠方就業ワーカーにおいて「旅館・宿泊・レジャーサービス業」が21.5%を占める点は、顕著な傾向といえる。遠方就業ワーカーが遠方地域で観光に関連する業務の担い手となっている実態が推察される。

図表8　遠方就業ワーカーが働いた業種（N＝396）（MA）



過去の就業先遠方地域との関わりと業種の関係

さらに、過去の就業先遠方地域との接点内容と実際に就業した業種をクロス集計した結果、特徴的な傾向が確認された。当該遠方地域に「観光（日帰り・宿泊計）[13]」で訪問したことがある層（n=147）において、就業先として「旅館・宿泊・レジャーサービス業」を選択した割合は29.9%であった。この傾向は、過去の接点が「観光（宿泊のみ）[14]」（n=50）であった層においてさらに顕著となり、同業種に従事した割合は48.0%にまで上昇する。一方で、観光以外の接点（知人・友人がいるなど）を持つ層（n=249）における同業種への従事割合は16.5%に留まっている。

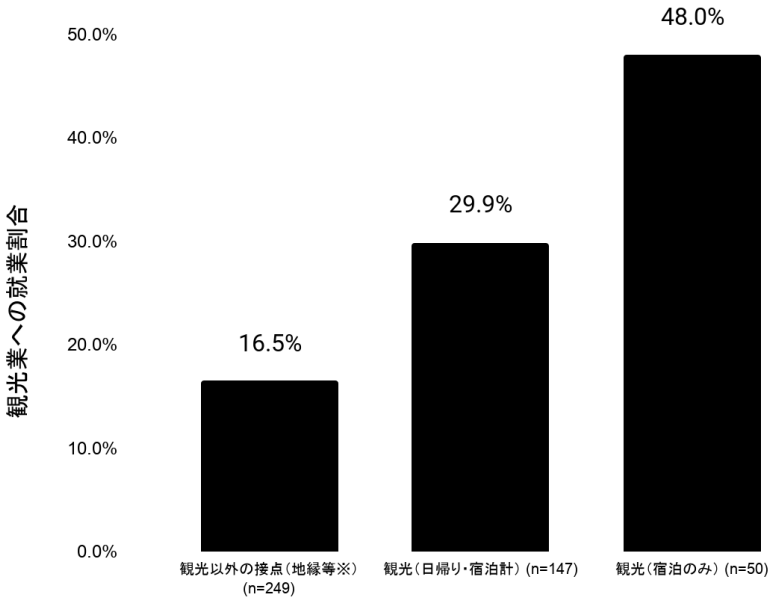
この結果は、一度利用客として訪れた際の土地勘や安心感が、後の就業選択における心理的ハードルを下げている可能性を示唆している。今後は、こうした就業体験が、単なる一時的な労働供給に留まらず、継続的な地域との関わりに発展するかどうかを分析していくことが必要である。

[12] 業界別募集人数を基に算出（2025年10月の1か月間）

[13] 「その「遠方の地域」について、あなたは、タイミーの仕事以外でどのような関わりをもっていますか。」（MA）の質問に対する「観光（宿泊）で訪問したことがある」と「観光（日帰り）で訪問したことがある」の選択肢のいずれかを回答した者を指す。

[14] 「その「遠方の地域」について、あなたは、タイミーの仕事以外でどのような関わりをもっていますか。」（MA)の質問に対する「観光（宿泊）で訪問したことがある」の選択肢を回答した者を指す。

図表9　過去の接点別「旅館・宿泊・レジャーサービス業」就業割合



※「観光（観光・宿泊）で訪問したことがある」を選択していない者であって、選択肢中「タイミーの仕事以外で関わりを持ったことがない」、「地縁がある又は血縁者のいる地域に訪問している」「知人・友人がいる」「地域づくり、地域貢献活動又はボランティアなどで訪問している」「体験イベントなどで、定期的又は継続的に訪問している」「会社の支社・営業所、コワーキングスペース等がある」「副業や兼業等として働いている」「その地域のためになる仕事を請け負っている」「ふるさと納税によって、継続的に応援している」「その他」のいずれかを選択した者

4.2 就業先遠方地域における滞在中の行動

4.2.1 滞在中の行動に基づく「地域との関わり方」の分類

アンケートの質問「タイミーで働いた『遠方の地域』でどのような過ごし方をしましたか。また、どのような過ごし方をしてみたいと思いますか（問10）」という設問の回答に基づき、地域での行動実績を以下の3つのタイプに分類し、分析を行った。なお、調査票については、付録を参照されたい。

図表**10** 「地域との関わり方」の分類の考え方・定義

分類	考え方	分類の定義 （問**10**の選択肢）
① 収入型	遠方地域において、タイミーの就業以外、特段の活動を行っていない者	「タイミーの仕事のみ」を選択した者
② 余暇活動中心型	遠方地域での就業の機会に、観光や買い物、本業の仕事など、タイミーでの就業以外の活動も併せて行っている者（③の地方関心型に該当する者を除く）	「地域ならではの飲食や買い物（地場産品の購入等）」「本業とは異なる仕事（副業や兼業など）」「本業として普段行っている業務や仕事（テレワークなど）」「家族や親族、友人との交流」のいずれかを選択した者（③の地方関心型に該当する選択肢を回答した者を除く）
③ 地方関心型	遠方地域での就業の機会に、祭り・ボランティア・まちおこしなど、いわゆる「地域活動」にも参加している者	「祭りや地域体験プログラム等への参加」「地域のボランティアや共助活動への参加」「地域のまちおこしにつながるようなプロジェクトの企画・運営、または協力・支援など」のいずれかを選択した者

行動実績に基づく関わりの実態

遠方就業ワーカーにおける各分類の内訳は、収入型：55.1%、余暇活動中心型：35.9%、地方関心型：9.1%となった。

この結果から、収入型が最多であるものの、遠方就業ワーカーの約半数（45.0%：②と③の合計）は、単に現地で労働に従事するだけでなく、当該地域において何らかの経済活動や地域活動を行っていることが確認された。

潜在的意欲と機会のギャップ

今後の希望を含めた「潜在的意欲も含めたニーズ（実際に過ごした内容 ＋ 過ごしてみたい内容）」を分析すると、「②余暇活動中心型」と「③地方関心型」を合わせた割合は、実績の45.0%から、実績＋過ごしてみたい内容では78.6%へと大幅に上昇する。これは、遠方就業ワーカーの約8割が、就

業先遠方地域において何らかの経済活動や地域活動を行いたいという意向を有していることを示している。

一方で、実際に過ごした内容＋過ごしてみたい内容（78.6%）と実績（45.0%）の間には、33.6ptものギャップが存在している。この乖離は、ワーカー側が地域に対して「貢献したい」「関わりたい」という意欲を持っているにもかかわらず、現状では「就業と組み合わせて参加できる地域活動の機会」などが不足していること、あるいは情報提供が十分でないこと等が考えられる。

図表**11** 「地域との関わり方」の分類（「実際に過ごした内容」と「過ごしてみたい内容を含む合計」のギャップ）

分類 （**N＝396**）	①実際に過ごした内容（実績）	②実際に過ごした内容＋過ごしてみたい内容	潜在的意欲（②-①）
②余暇活動中心型	35.9%	51.8%	15.9pt
③地方関心型	9.1%	26.8%	17.7pt
②＋③	45.0%	78.6%	33.6pt

具体的な行動内容の分析

分類別の具体的な行動内容を詳細にみると、以下の実態が示された。

「余暇活動中心型」の動向:「地域ならではの飲食や買い物（地場産品の購入等）」を「実際に過ごした内容」として挙げたワーカーは27.5%、「自分の趣味や地域の環境を楽しむ活動（観光など）」を挙げたワーカーは22.7%であった。これに「過ごしてみたい」という潜在意欲を含めると、それぞれ48.7%、41.7%に達し、遠方就業が地域消費を創出する重要なきっかけとなっていること、またはなり得ることがわかる。

「地方関心型」の動向:直接的な地域活動の実績については、「祭りや地域体験プログラム等への参加」が7.1%、「地域のボランティアや共助活動への参加」が4.3%、「地域のまちおこしに関連するプロジェクトの企画・運営、または協力・支援など」が5.1%であった。これに「参加してみたい」という潜在意欲を含めると、それぞれ21.7%、18.4%、19.7%まで上昇する。

図表**12** 遠方就業ワーカーの就業先遠方地域での行動内容（**N**＝**396**）（**MA**）

項目	「実際に過ごした内容」のみ	「過ごしてみたい内容」を含む
タイミーの仕事のみ	55.1%	56.3%
地域ならではの飲食や買い物（地場産品の購入等）	27.5%	48.7%
自分の趣味や地域の環境を楽しむ活動（観光など）	22.7%	41.7%
本業とは異なる仕事（副業や兼業など）	22.5%	33.8%
本業として普段行っている業務や仕事（テレワークなど）	5.3%	16.7%
家族や親族、友人との交流	12.6%	25.8%
祭りや地域体験プログラム等への参加	7.1%	21.7%
地域のボランティアや共助活動への参加	4.3%	18.4%
地域のまちおこしにつながるようなプロジェクトの企画・運営、または協力・支援など	5.1%	19.7%

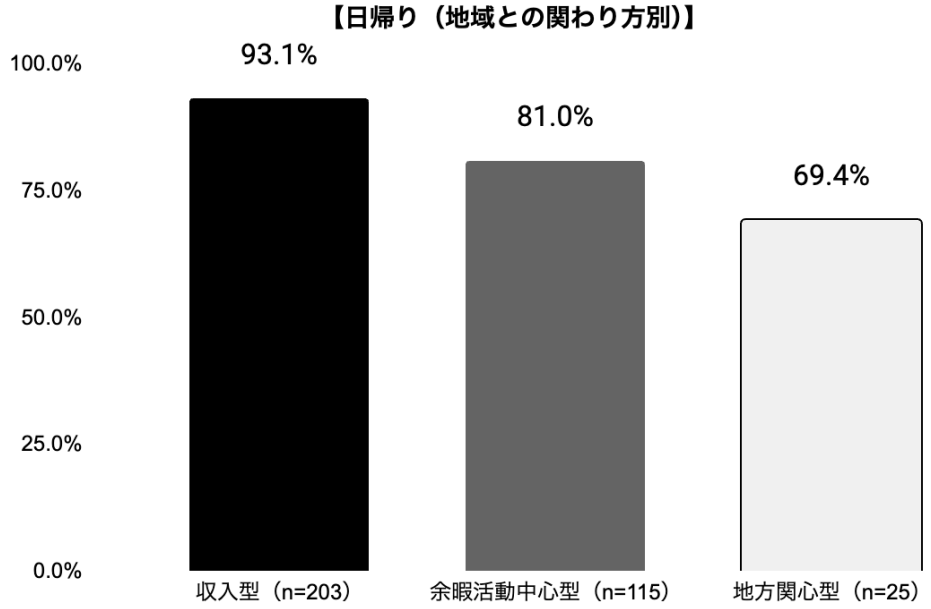
地域への関わり方と滞在日数

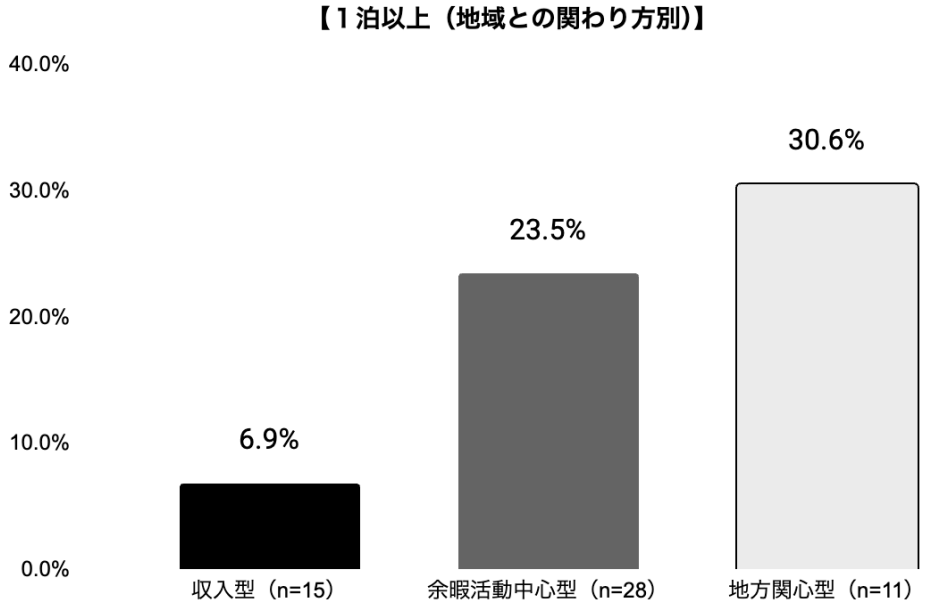
関わり方の分類（4.2.1）ごとに滞在日数を分析した結果、収入型と比べ、余暇活動型・地方関心型の方が宿泊を伴う滞在割合が顕著に高まる傾向が明らかとなった。具体的には、宿泊（1泊以上）を伴う就業の割合[15]は、収入型では6.9%に留まるのに対し、余暇活動中心型では23.5%、地方関心型では30.6%に達することがわかった。この結果は、余暇活動型・地方関心型が、宿泊を伴う中長期的な滞在を通じて、現地での消費や地域活動により深く関与している実態を裏付けるものである。

なお、以上のデータは、タイミーを通じた就業を主目的とし付随的に経済・地域活動を行っているのか、あるいは経済・地域活動を主目的として付随的にタイミーを通じて就業しているのか、その主従関係を特定することはできない。しかし、いずれのケースにおいても、タイミーを通じた「遠方就業」という行動と、滞在中の「地域消費」や「地域活動」が高い親和性を持ち、両立し得るものと言えるだろう。

[15] 「あなたが、タイミーを通じてその「遠方の地域」で働いた際、最も長かった滞在日数はどの程度でしたか。」（SA）の質問に対して、「1泊2日」「2～4泊」「1週間程度」「2週間程度」「1か月程度」「その他（※1泊以上と整理できる回答のみ）」のいずれかを選択した者の割合。

図表**13** 「地域との関わり方」の分類と遠方就業ワーカーの滞在日数





5 まとめ

本レポートを通じて、タイミーを通じたスポットワークという働き方は、広域的なマッチングや遠方就業を創出しやすい特性があることがわかった。特に「旅館・宿泊・レジャーサービス業」に代表される観光分野においてその傾向が顕著であることが明らかとなった。

広域マッチング・遠方就業そのものを直ちに「関係人口」と評価することはできない。しかし、こうした形で就業するワーカーのうち一定数は、単に収入を得るためだけでなく、当該遠方地域への関心を持って就業しているという事実は注目に値する。これらの層は、滞在中に地域活動へ積極的に参画するとともに、今後の地域での消費や交流活動に対しても高い意欲を示している。こうした実態を踏まえれば、広域マッチング・遠方就業を通じたワーカーの中には、「関係人口」と評価し得る者も一定存在するものと推察される。

地域が戦略的に、関係人口を創出・拡大していくためには、潜在的な意欲を行動へ転換させるための仕組みづくりや、多様なアクターとの連携による機会提供が重要となる。そうした取組において、就労を通じて地域と個人を結びつけるマッチングプラットフォームが果たし得る役割は小さくないと考えられる。

付録:調査票

タイミーにおける「地方就業」の実態とその動機に関する調査

日頃より、タイミーのサービスをご利用いただき、誠にありがとうございます。
株式会社タイミー スポットワーク研究所 地方創生グループでございます。

最近、お住まいの地域から離れた場所でタイミーを使って働く方が増えています。このような「遠方の地域での就業」は、タイミーの多様な働き方を象徴するひとつの形と考えています。

そこで、我々は**タイミーを通じて遠方の地域で働いている方が、どのようなきっかけで、どのような目的を持って就業されているのか**について、アンケート調査を実施することにしました。

この調査結果は、今後のサービス改善や、地域との新たな連携を模索するための重要な資料として活用させていただきます。

ご回答いただいた個人情報が外部に漏れることはございません。ご多忙の折とは存じますが、本調査の趣旨にご理解いただき、ご協力いただけますと幸いです。

ぜひ、皆様の率直なご意見をお聞かせください。

メールアドレス *

有効なメールアドレス

このフォームではメールアドレスが収集されます。 設定を変更

問1.あなたは、「日常的な生活圏」以外の地域や、「通勤・通学先」以外の地域（以下「遠方の地域」といいます）で、「タイミーを通じて」就業したことはありますか。 *

- ◯ はい
- ◯ いいえ

問1.で「はい」と答えた場合

問2.「問1」で答えた「遠方の地域」のうち、あなたが最も頻繁に訪問した地域（市町村名）を一つお答えください。 *

短文回答

※ここから、問2で答えた「遠方の地域」について答えてください。 *

問3.その「遠方の地域」について、あなたはタイミーで働く「前」から関わりがありましたか。

- ◯ はい（タイミーの就業前後で関わりの強さは変わらない）
- ◯ はい（タイミーの就業後、関わりの強さが大きくなった）
- ◯ いいえ

問4.その「遠方の地域」について、あなたは、タイミーの仕事以外でどのような関わりをもっていますか。 *
当てはまるもの全てにチェックを入れてください。

- [ ] 知人・友人がいる
- [ ] その地域のためになる仕事を請け負っている
- [ ] ふるさと納税によって、継続的に応援している
- [ ] 地域づくり、地域貢献活動又はボランティアなどで訪問している
- [ ] タイミーの仕事以外で関わりを持ったことがない
- [ ] 会社の支社・営業所、コワーキングスペース等がある
- [ ] 観光（日帰り）で訪問したことがある
- [ ] 副業や兼業等として働いている
- [ ] 地縁がある又は血縁者のいる地域に訪問している
- [ ] 観光（宿泊）で訪問したことがある
- [ ] 体験イベントなどで、定期的又は継続的に訪問している
- [ ] その他: _____

問5.その「遠方の地域」で、あなたはどのような仕事（タイミー）で働きましたか。 *
当てはまるもの全てにチェックを入れてください。

- [ ] 飲食業
- [ ] 旅館・宿泊・レジャーサービス業
- [ ] その他サービス業
- [ ] 物流・運輸
- [ ] 小売（スーパー、コンビニなど）
- [ ] 製造業（食品）
- [ ] 製造業（食品以外）
- [ ] 介護・福祉系
- [ ] 農業・漁業
- [ ] その他: _____

問6.あなたが、タイミーを通じてその「遠方の地域」の仕事に行く際に、利用する交通手段は何ですか。 *
当てはまるもの全てについて教えてください。

- [ ] 自家用車
- [ ] 電車（在来線）
- [ ] 電車（新幹線）
- [ ] 路線バス
- [ ] レンタカー
- [ ] 飛行機
- [ ] その他

問7.あなたが、タイミーを通じてその「遠方の地域」の仕事に行く際、訪問にどのくらいの時間を要しますか。 *
所要時間（全ての交通手段の合計時間）を記入ください。（例：「1時間30分」）

回答を入力

問8.あなたが、タイミーを通じてその「遠方の地域」で働いた際、最も長かった滞在日数はどの程度でしたか。 *

- ○ 日帰り
- ○ 1泊2日
- ○ 2〜4泊
- ○ 1週間程度
- ○ 2週間程度
- ○ 1か月程度
- ○ その他:

問9.あなたが、その「遠方の地域」で、タイミーを通じて仕事をした理由を教えてください。 *
当てはまるもの全てにチェックを入れてください。

- [ ] 収入を得るため
- [ ] 別件の用事（観光やボランティア、仕事など）に空き時間があったから
- [ ] 特に理由はない・なんとなく
- [ ] 選択肢 8
- [ ] その地域自体に関心があったから
- [ ] その地域に、関心のある企業・仕事内容があったから
- [ ] 様々な地域を訪れたかったから
- [ ] その地域での移住や二拠点居住を検討しており、お試しで働いてみたかったから
- [ ] その他: _____

問10.あなたは、タイミーで働いた、その「遠方の地域」でどのような過ごし方をしましたか。また、どのような過ごし方をしてみたいと思いますか。
該当するものにチェックを入れてください

	実際に過ごした内容	過ごしてみたい内容
タイミーの仕事のみ	☐	☐
地域ならではの飲食や買い物（地場産品の購入等）	☐	☐
自分の趣味や地域の環境を楽しむ活動（観光など）	☐	☐
本業とは異なる仕事（副業や兼業など）	☐	☐
本業として普段行っている業務や仕事（テレワークなど）	☐	☐
祭りや地域体験プログラム等への参加	☐	☐
地域のボランティアや共助活動への参加	☐	☐
地域のまちおこしにつながるようなプロジェクトの企画・運営、または協力・支援など	☐	☐
家族や親族、友人との交流	☐	☐

現在の居住地で同居している世帯構成を教えてください。

- ◯ 単身・独身
- ◯ 夫婦と子ども
- ◯ 夫婦のみ
- ◯ 母子・父子世帯
- ◯ 親世帯と同居
- ◯ 子ども世帯と同居
- ◯ 知人・友人等の同居人
- ◯ その他: _____

あなたの職業（本業）を教えてください。

- ◯ 正規職員
- ◯ 契約社員
- ◯ 派遣社員
- ◯ パート・アルバイト
- ◯ 会社経営（経営者・役員）
- ◯ 公務員・教職員
- ◯ 自営業
- ◯ 専業主婦・主夫
- ◯ 学生
- ◯ 無職
- ◯ その他: _____

問1.で「いいえ」と答えた場合

問2.あなたは、**本業の仕事**では、どの程度の通勤時間（**片道**）をかけていますか。 *

所要時間（全ての交通手段の合計時間）をお答えください。

- ◯ 本業はない
- ◯ 30分以内
- ◯ 30分～45分以内
- ◯ 45分～60分以内
- ◯ 60分～90分以内
- ◯ 90分～120分以内
- ◯ 120分～150分以内
- ◯ 150分以上
- ◯ その他: _____

問3.あなたが**タイミーで仕事**をする上で、許容できる最長の通勤時間（**片道**）はどの程度ですか。 *

- ◯ 30分以内
- ◯ 45分以内
- ◯ 60分以内
- ◯ 90分以内
- ◯ 120分以内
- ◯ 150分以内
- ◯ その他: _____

問4.あなたが**タイミーで仕事**を行う際に、利用する交通手段を教えてください。 *
当てはまるもの全てにチェックを入れてください。

- ☐ 徒歩
- ☐ 自家用車
- ☐ 自転車
- ☐ 電車（在来線）
- ☐ 路線バス
- ☐ レンタカー
- ☐ その他: _____

問5.あなたが、「遠方の地域」※で働いたことのない理由を教えてください。 *
※「居住地（日常的な生活圏）」や「通勤・通学先」以外の地域のことをいいます。

- [ ] 自分の趣味や学習など、プライベートな時間を確保にしたいから
- [ ] 慣れない場所で働くことへの不安があるから
- [ ] 交通費がかさむのがもったいないから
- [ ] 家事や育児、介護に割く時間を確保したいから
- [ ] 通勤時間が長くなるのが嫌だから
- [ ] なんとなく
- [ ] そもそも、遠方での仕事を探そうと思わなかったから
- [ ] 希望する職種や仕事内容の求人が、近くにしかなかったから
- [ ] 交通機関の遅延や運休など、トラブルが心配だから
- [ ] 満員電車や交通渋滞が苦手だから
- [ ] その他: _____

現在の居住地で同居している世帯構成を教えてください。

- ○ 単身・独身
- ○ 夫婦と子ども
- ○ 夫婦のみ
- ○ 母子・父子世帯
- ○ 親世帯と同居
- ○ 子ども世帯と同居
- ○ 知人・友人等の同居人
- ○ その他: _____

あなたの職業（本業）を教えてください。

- ◯ 正規職員
- ◯ 契約社員
- ◯ 派遣社員
- ◯ パート・アルバイト
- ◯ 会社経営（経営者・役員）
- ◯ 公務員・教職員
- ◯ 自営業
- ◯ 専業主婦・主夫
- ◯ 学生
- ◯ 無職
- ◯ その他: _____